

矢高同窓会報

発行所
岡山県小田郡矢掛町
岡山県立矢掛高等学校
同窓会
電話 (0866) 82-0045
82-0054
編集兼発行人
同窓会事務局
印刷所
有限会社あさひ印刷所

学んでよかった矢掛高校

矢掛高等学校同窓会副会長 植崎裕志
(昭和41年卒)



今これを読まれているほとんどの人は、矢掛高校で学んだ人だと思っ

青春時代の3年間を矢掛高校で過ごした人。その中身はそれぞれだと思う。勉強に明け暮れた人、部活動に取り組んだ人、恋心や失恋を経験した人、生涯の友と出会った人。それぞれの高校生活だと思

6月に矢掛町と矢掛高校で「包括協定」が結ば

れた。今でも「やかげ学」などで、高校生が小学校や図書館、たかつま荘など地域のいろんな施設で活動していたが、今後は矢掛の町づくりに積極的に参画し、活気ある町づくりの原動力になると同時に、今まで以上に魅力ある矢掛高校となることを目指すもので、矢掛町の期待も大きくそのために矢掛町も必要なことはできるだけ支援をしていくというものである。県立高校と市町村がこうしているのは岡山県では2校だけである。矢掛の町づくりにとって矢掛高校の果たしている役割は多く、生徒の活動に支えられていたり、生徒の柔軟

な発想力から新規の事業につながったりしたものもある。それは高校生にとっても自信や成長につながり卒業後の進路決定そして職業選択にも影響し、矢掛で働くようになった人もいる。少子化で定員割れとなる高等学校も多いが、どの高等学校もその学校独自の魅力づくりに励み地域で果たしている役割は大きい。矢掛高校の「やかげ学」は全国的にも注目されていて、県外からの視察も多く「やかげ学」と同じような取り組みをしている高校もふえてい

上がった。矢掛で生まれ矢掛高校で学び、日本の財界の重鎮として活躍された方だ。その渡辺武次郎さんが生涯座右の銘としていたのが「至誠力行」という矢掛高校の校訓である。矢掛高校は渡辺武次郎さんだけでなく、多くの大先輩を輩出している。でも一番大切なのは、今矢掛高校で学んでいる生徒、矢掛高校を卒業した生徒が「矢掛高校に来てよかった!」と思えることだ。失敗や挫折もあるだろう。でもその時「あの友達がいた」「あの先生がいた」と思えるような高校生活だったなら最高。そこまでではなくても失敗や挫折から立ち上がる力を付けることが大切。今の矢掛高校にはそうした力を付ける風土があるように思う。それは学校内だけでなく矢掛という地域にも。

同窓会は高等学校を卒業すると同時に入会するが、ややもすると定年後の人の集まりというイメージもある。そうではなくいろいろな年代の人が関われ、矢掛高校を盛り上げ応援していけるような組織となれば、矢掛高校だけでなく矢掛の町全体の活性化につながるのではないかと思います。

『矢掛町と矢掛高校との連携協力に関する包括協定』について

校長 高月秀人
(昭和55年卒)



長石井祥一郎様をはじめ、この同窓会に集われた諸先輩方に、深い敬意と感謝の念を抱いた同窓会でした。

同じく6月2日(日)には、総社市国民宿舎サンロード吉備路におきまして、倉敷たかつま会総会が開催されました。もちろん私も参加させていただきました。会長の土師眞一様をはじめ、主に倉敷市そして矢掛町にお住まいの方々と

今後も矢掛高校や矢掛高校の同窓会にアイデアや忠言、そして御協力をお願いします。

しても足りないくらいいの元気の素をいただいた次第です。

次年度より関東支部長には木口利男様(昭和45年卒)が、倉敷支部長には中西 章様(昭和41年卒)が就任されます。今まで支部長として御尽力いただいた石井様、土師様には心から感謝申し上げますとともに新たに支部長に就任された木口様、中西様には改めましてよろしく御願い申し上げます。

さて、私は折につけて校長室にある歴代のアルバムを拝見することがあります。どのアルバムの写真からも当時の高校生たちのあふれんばかりの若々しい、澁瀬としたエネルギーが伝わってきます。「当時は中学生も、この地に育った者は矢掛高校に進学するのが当たり前でした。他の選択肢は全く考えなかった。」と、ある卒業生の方もおっしゃっておられました。当時は矢掛町など岡山県の中山間地域にも人が多く、高校入試は小学区制で、交通手段も限られて

いましたから、地元で育った中学生の大多数が矢掛高校に進学しており、他の高校に行くという発想そのものがなかったというところもありますが、それにしても、こんなにも多くの若者が本校に集まっていたのかと驚かされます。

本校の長い歴史において、この10年間は、大きな変動の時期となつていくことに気づかれます。

現在、社会を取り巻く情勢は激しい勢いで様変わりし、教育に対する改革も急務の課題となり、長期的な展望に立つたうえでの魅力ある学校づくり、地域との連携に基づく開かれた学校づくりが求められていきます。県内において岡山市、倉敷市以外の地域では、少子化の影響が顕著なものとなり、多くの高等学校が定員割れの状況となっておりま

す。幸いなことに今回の高校入試では本校は普通科の定員を上回り、地域ビジネス科もわずかに定員を下回る志願者状況でしたが、岡山市において岡山市と倉敷市以外の特

に普通科校は大きく定員を下回る状況が見られました。この傾向は本県のみならず全国的な傾向ではあります。県下の中山間地域の少子化が今後続く中で、本校も更なる魅力化の促進と、地域との連携を通じて、地域の活性化になくてはならない存在であることが重要になってくると予想されます。

6月19日には、地元矢掛町と本校との間で『連携協力に関する包括協定』の調印がありました。この協定の目的につきましては次のとおりです。

第1条に「この協定は、多様な分野において包括的な協力関係を築き、連携を深め、若者世代のまちづくりへの参画機会を増やすとともに、継続的にまちづくりに関わり続ける環境をつくり、地域において様々な分野で活躍できる人材を育てていくことを目的とする」

第2条に町と高校との連携・協力につきま

して、「町と矢掛高校は、町の定める最上位計画に基づくまちづくりの実現及び矢掛高校の掲げる教育目標、方針の達成に資するため、次に掲げる事項について、連携、協力するものとする」

- (1) まちづくり、地域の活性化に関する事項
- (2) 人材育成に関する事項
- (3) 地域の小・中学校の取組をふまえた高等学校教育の魅力づくりの推進
- (4) 教育環境の整備に関する事項
- (5) その他前条の目的を達成するために、町及び矢掛高校が必要であると認める事項

すでに今までも「学校の魅力化」のための取組とともに「確固とした地域連携の組織づくり」に重点を置いた実践の過程で、矢掛町及び地域の方々による御支援と御協力のもと、多くの収穫がありました。今回の包括協定は、矢掛町が矢掛高校の地域における存在

意義を再確認し、その存在を町の活性化のために必要不可欠であると明確な形で明文化したものととなっております。

この包括協定により、「学校と地域とが連携して、この地域で育った子どもたちを、自立し、社会貢献できる若者に育てる」、「矢掛高等学校が地域にとって必要不可欠な、地域活性化の一翼を担う存在である」という共通認識を地域と矢掛高校とで再認識できたことは大変重要なことであると考えます。

今まで以上に地域及び各種関係機関との連携を深化させ、矢掛高等学校が、地域活性化の一翼を担える、地域になくはない存在へと更なる成長を遂げるべく、教職員、生徒、保護者の皆様、同窓会の皆様、地域の方々と共に鋭意邁進して行きたいと思ひます。本校の存在意義を深く考察してみますと、120年

を超える歴史の中で、常に多くの若者の夢を育み、その澁瀬とした若い力によって、地域に勇気と誇り、そして活力を与え続けてきた本校の軌跡が改めて見渡されます。長い間、この地にあって当たり前であった存在、公的な教育機関である矢掛高等学校のこれからの存在意義を、今まで以上に堅固に、そして魅力的に紡いで行けたらと強く決意する今日この頃です。

同窓会の皆様には、今後ともあたたかい御支援と御協力をよろしく御願ひいたします。



矢掛高校同窓会 あれこれ

令和6年度

関東支部 総会

令和6年
5月17日関東支部長 木口利男
(昭和45年卒)

石井支部長の開会挨拶

ました。

総会では来賓の池田会長から各地の同窓会の近況報告と、観光客が増えて活気がある矢掛町の現況について報告がありました。また同じく来賓の高月校長からは、今年度は近隣の公立高校が苦戦する中にもかかわらず、矢掛高校には募集定員を満了す入学希望者があ

令和6年度の関東支部総会及び懇親会が5月17日(金)12時から東天紅国際フォーラム店で開催されました。昨年の総会案内を行った際に、支部員の数名から参加したいが夜間の外出は控えているので参加できないという声があったため、参加者増を願って今年は昼間の開催といたしました。その結果、支部員42名の参加となり(昨年比+13名)大変にぎやかな会となり



豪華ビュッフェ+飲み放題



最大勢力の昭和38年卒業組

自然光の入る明るいスペースでしたので参加者の皆さんの顔色も明るく、一年ぶりに会った常連メンバーや初参加の人も一緒に丸テーブルを囲み昔話に花が咲きました。参加者の最年長は小出昌成さんと戸出正夫さん(昭和27年卒)で、今年も小出さんに元氣一杯の乾杯の御発声をお願いしました。

昼間の開催に変えたことで参加者の増加には成功しましたが、平日の昼間だった為現役世代のOBが参加しにくかったのが今年の反省点です。来年は土、日の開催にしてより多くの方に参加しやすい同窓会にしたいと思います。



昭和45年卒業組

東天紅国際フォーラム店は、「船」を題材にしたガラスの吹き抜けホール(ガラス棟)の7階にあります。総会・懇親会会場はオープンスペースのテラスで、

第37回倉敷たかつま会総会 国民宿舎「サンロード吉備路」にて
令和6年6月2日

第37回

倉敷たかつま会
総会

令和6年6月2日

倉敷支部長 中西章
(昭和41年卒)

初めまして、倉敷たかつま会会長に就任致しました。

昭和41年卒業、少し年を取り過ぎてはおりますが、頑張りたいと思っております。

倉敷たかつま会は昨年に続き「第37回総会をサンロード吉備路」にて高月校長の御出席を頂き24名にて、トリオで詩吟(3名で)、トランペット演奏、カラオケと余興も取り

混ぜ和やかに行われました。高月校長から矢掛高校の現状説明を戴き、昨今少子化の影響で定員割れの学校の多い中で、矢掛高校は、入学希望者も多く定員オーバー傾向との事、先生方の努力の跡が見受けられます。ありがとうございます。

わが倉敷たかつま会の会員数も、新人3名加入もあり、頼もしく思う反面、御高齢・体調不良で脱会される方もあり、今後会員の増加が大きな課題となります。会員増加に努力して参ります。